Colors, Future!
いろいろって、未来。
川崎市

令和元年 11 月 1 日

小学生記者が川崎臨海部を取材
かわさきリンカイブ小学生新聞を発行します！！

川崎市では、臨海部立地企業と市民の接点を作り、臨海部の認知度・理解度向上を図ることを目的に、市内小学生が新聞記者として工場を見学し制作した「かわさきリンカイブ小学生新聞」を発行します。同新聞は、令和元年 10 月 15 日に市内小学生 20 人が新聞記者として参加した「川崎臨海部 小学生取材ツアー」実施後に制作したもので、5 グループに分かれて新聞を制作しました。また、参加された父母の方々の御意見も編集して、川崎臨海部記念新聞も制作しました。

今回のような小学生が臨海部企業を視察し新聞にまとめる取組は初の試みです。

同ツアーでは、川崎臨海部を代表とする JFE スチール東日本製鉄所、JERA 川崎火力発電所や川崎マリエンを見学し、各々の視点で感じたことや思ったことをメモに取り、写真に収める等して新聞制作を行いました。

新聞制作にあたっては、専修大学文学部ジャーナリズム学科教授・学科長の山田健太教授と同大学学生 8 人にツアーに同行いただき、取材のポイントや写真の撮り方や文章校正のテクニックなどのアドバイスを受けながら行いました。

小学生らは、普段の生活で使っている鉄やエネルギーが作られる現場を見て、大きな感動を抱いたようで、大人では気がつかない視点での記事や写真を上手に編集して新聞を仕上げました。

完成後、山田教授より、各グループの良かった点を評価して、賞を授与しました。

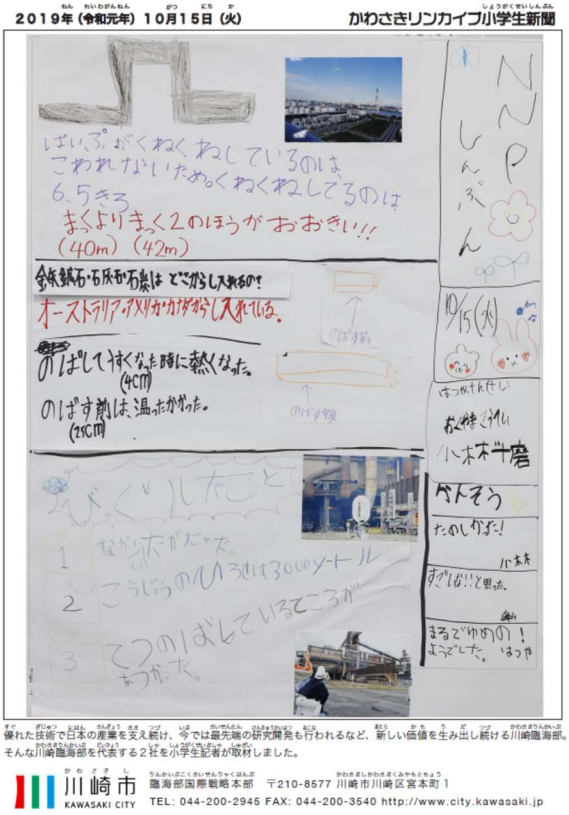
川崎臨海部 小学生取材ツアーの概要

1　実施日時　令和元年 10 月 15 日（火）9:00～17:20
2　見学場所　JFE スチール東日本製鉄所(株)
　　(株)JERA 川崎火力発電所
3　参 加 者　市内在住の小学生 20 人とその保護者 19 人
　　専修大学文学部 ジャーナリズム学科 教授・学科長　山田健太氏
　　専修大学文学部 人文･ジャーナリズム学科 学生 8 人

かわさきリンカイブ小学生新聞の発行概要

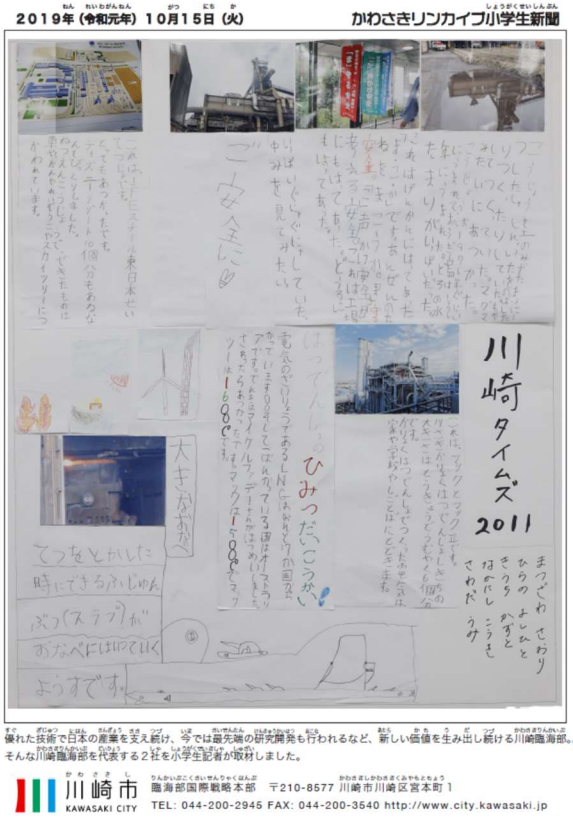
1　発行形態　全 5 版（Ａ～Ｅグループ）
2　配布開始日　令和元年 11 月中旬（予定）
3　配布場所　＊市内小学校（全 114 校）
　　＊市内区役所･支所等(13 ヶ所)、図書館(9 館)、教育文化会館・市民館(7 館)
　　＊本市ホームページから閲覧・ダウンロードができます。
URL：http://www.city.kawasaki.jp/shisei/category/57-1-8-0-0-0-0-0-0-0.html

【かわさきリンカイブ小学生新聞　Aグループ/1 年生版】



「ユニーク賞」

【かわさきリンカイブ小学生新聞　Bグループ/2 年生版】

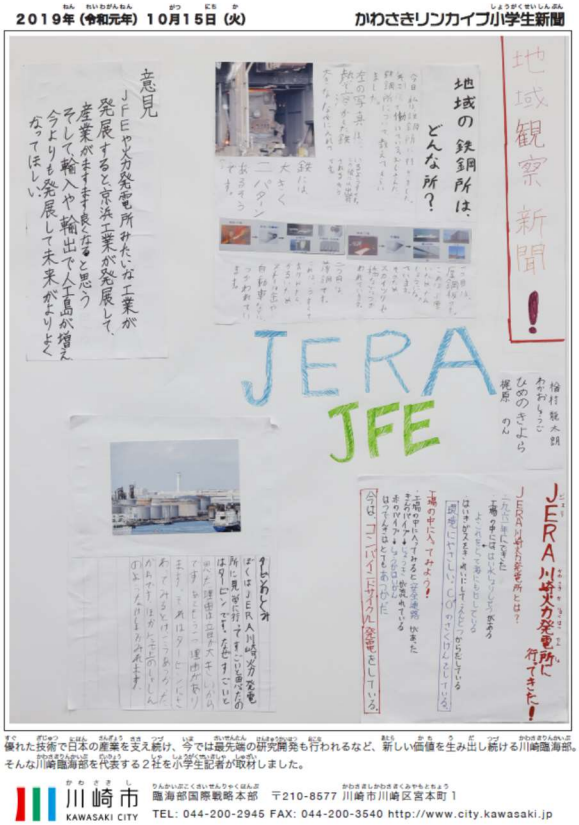


「ビューティフルフォト賞」

【かわさきリンカイブ小学生新聞　Cグループ/3 年生版】

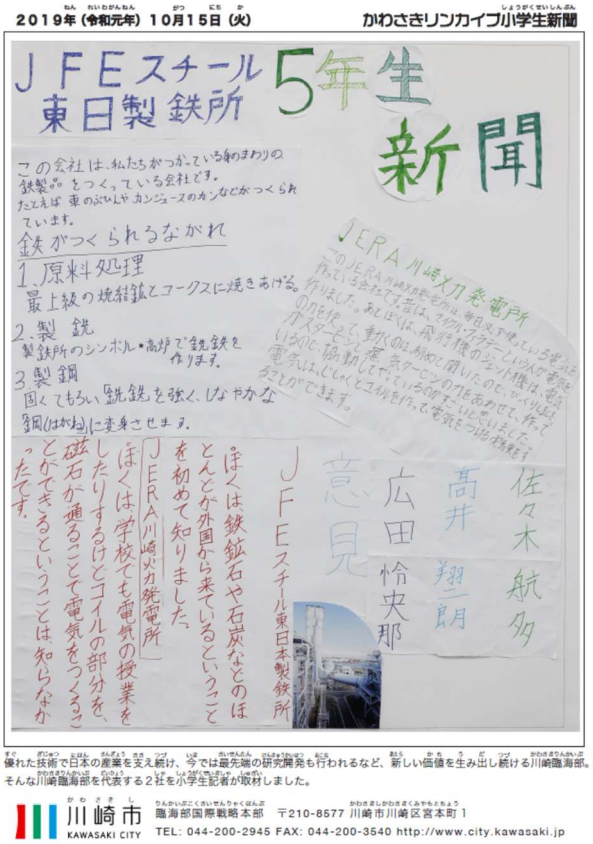
「ワンダフルデザイン賞」

【かわさきリンカイブ小学生新聞　Dグループ/4･6 年生版】



「ナイスリポート賞」

【かわさきリンカイブ小学生新聞　Ｅグループ/5 年生版】


2019年（令和元年）10月15日（火）　かわさきリンカイブ小学生新聞

JFEスチール東日製鉄所　5年生新聞

この会社は、私たちがかっている身のまわりの鉄製品をつくっている会社です。たとえば車のぶいしやカンジュースのカンなどがつくられています。

鉄がつくられるながれ

1.原料処理
最上級の焼結鉱とコークスに焼きあげる。

2.製鉄
製鉄所のシンボル・高炉で銑鉄を作ります。

3.製鋼
固くてもろい銑鉄を強く、しなやかな鋼(はがね)に変身させます。

JERA川崎火力発電所
この JERA川崎火力発電所は、毎日見学使っている電気を作っている会社です。社員は、ツアーガイドしてくれました。のりを使って、動くのは、飛行機のシンバルしくみ。ガスタービン発電機のプロペラが、ぐるぐるまわって、作っているので、いっぱいとれます。電気は、じゃくとコイルを作って電気をつくりだす機械です。

意見

ぼくは鉄鉱石や石炭などのほとんどが外国から来ているということを初めて知りました。

JERA川崎火力発電所
ぼくは学校でも電気の授業をしたりするけどコイルの部分を、磁石が通ることで電気をつくることができるということは知らなかったです。

JFEスチール東日本製鉄所

佐々木航汐
高井翔一朗
広田怜央那

優れた技術で日本の産業を支え続け、今では最先端の研究開発も行われるなど、新しい価値を生み出し続ける川崎臨海部。そんな川崎臨海部を代表する２社を小学生記者が取材しました。

川崎市 KAWASAKI CITY　臨海部国際戦略本部　〒210-8577 川崎市川崎区宮本町１
TEL: 044-200-2945 FAX: 044-200-3540 http://www.city.kawasaki.jp

「ラブリーハート賞」

【川崎臨海部 記念新聞　保護者版】

2019年（令和元年）10月15日（火）

川崎臨海部 記念新聞　保護者版

２０１９年１０月１５日（火）、川崎臨海部を１日かけてまわった。参加したのは、１年から６年までの川崎市内の小学生 20 人、「かわさき家庭と地域の日」を利用した、川崎市主催の特別プレスツアーだ。訪問先は、日本の製鉄業を代表するJFEスチール東日本製鉄所と、首都圏の発電を担うJERA川崎火力発電所。両社からの説明の後の質問コーナーでは、矢継ぎ早の質問が引きも切らず、時間を大きくオーバーする熱心さ、社員の皆さんをたじたじにした。

川崎臨海部特別プレスツアーに参加した保護者のコメント

JFEスチール東日本製鉄所

●子どもよりも熱心に工場見学していたかも。高炉や熱延工程を見られて感激。鉄は人間が長年蓄積した高度な技術の結晶で、橋梁・鉄道・車など、生活基盤を支えるとても重要なものだと再認識した。（40代・男性）

●京浜工業地区は、普段近寄らない場所なので、地元発見の良い機会となった。川崎市民がもっと知って、身近に感じ、誇りが持てるような集客施設の建設を希望。（40代・女性）

●製造現場がコンパクトに動明され、見応えがあった。（50代・男性）

●製造途中で発生した色々なガスを、ミックスガスとして再利用して、環境に配慮しているのを知った。（40代・女性）

JERA川崎火力発電所

●自分たちが毎日使う電気が、どんな機械で作られているかを見学して、身近に感じることが出来た。

●電気が足りない（発電）という事実のスケールを、子ども目線で理解してくれていたと思う。音の大きさに圧倒された。

●エコ発電の現状や廃気の有効活用を知ることが出来て有意義だった。

●生活に欠かせない大切な電気なので、ますますの発展を期待したい。（40代・女性）

●夜の電気など、とても身近なのに、目には見えにくいダイナミックなものが、どのように作られていかった。私たちの生活を支えているのか、体感出来て良かった。工場ならではの景観は、大人でもテンション上がって、楽しかった。

川崎臨海部について

●どもらの工場も解体化に力を入れていると思った。（50代・女性）

●京浜工業地区は、普段近寄らない場所なので、地元発見の良い機会となった。川崎市民がもっと知って、身近に感じ、誇りが持てるような集客施設の建設を希望。（40代・男性）

新発見について

●見学だけで終わってしまうよりも、目的がしっかりしていて、モチベーションにつながったようだ。「メモもしっかりとっておかなければ」と頑張っていた。（40代・女性）

●見て、聞いて、吸収するだけではなく、何かを伝える作業は、今後どんな必要になるとと思うので、良い経験ができた。（40代・女性）

●普段、記事を見る機会がなく、見やすくする工夫が必要なことを感じたと思う。（50代・女性）

●子どもが今日の取材ツアー感想文で、「まだ？まだ？」と毎日言っていた。新発見満載で、学びしていた。（40代・女性）

●子どもが学校の勉強だけでなく、社会に関心を持って欲しいので参加した。（50代・男性）

川崎市 KAWASAKI CITY　臨海部国際戦略本部　〒210-8577　川崎市川崎区宮本町１
TEL: 044-200-2945　FAX: 044-200-3540　http:// www.city.kawasaki.jp/

【保護者アンケート結果の抜粋】（※記念新聞記事から）

●子どもよりも熱心に工場見学していたかも。高炉や熱延工程を見られて感激。鉄は人間が長年蓄積した高度な技術の結晶で、橋梁・鉄道・車など、生活基盤を支えるとても重要なものだと再認識した。

●自分たちが毎日使う電気が、どんな機械で作られているかを見学して、身近に感じることが出来た。

●京浜工業地区は、普段近寄らない場所なので、地元発見の良い機会となった。川崎市民がもっと知って、身近に感じ、誇りが持てるような集客施設の建設を希望。

●見学だけで終わってしまうよりも、目的がしっかりしていて、モチベーションにつながったようだ。「メモもしっかりとっておかなければ」と頑張っていた。

以上